



校訓： 進取 敬愛 剛健

児童像 【考える子 思いやる子 たくましい子】

# 英田っ子

学校だより 7月号

平成28年7月1日

校長 藤井 恒雄

## 感謝（ありがとう）とあいさつ

早いもので1学期も最後の月になりました。保護者の皆様には、日頃より学校へのご支援・ご協力を賜り感謝申し上げます。6月の資源回収では、多くの保護者の参加があり、能率よく作業も進行しました。ありがとうございました。

子どもたちは今日までの3ヶ月間で教科学習をはじめ、いろいろな行事や活動に取り組んできました。6年生は2泊3日の日程で能登少年自然の家での宿泊体験学習を行いました。少し雨にもあいましたが、協力しながら全ての活動をやり遂げていました。毎年6月に行われる4年生の器械運動交歓会では、長く厳しい練習を続けた努力が実って、当日はどの子も落ち着いて立派に演技することができました。5年生の音楽会は、学校公開の折にもお聞きいただきましたが、郡市小学校音楽会（内灘町文化会館）、さらには町小学校音楽会（シグナス）でも、美しく息の合った歌声を披露し、聴いている人たちの感動を呼びました。子どもたちの一生懸命な姿に、英田小学校の子どもたちの成長を感じました。このような様々な学習や活動で学び体得したことを、次につなげ、生かしていきたいと思います。



子どもの成長には「適度な壁」が必要であり、時には「無理をさせる」ことも必要だと思います。少しの困難に負けず我慢して努力する経験を積ませ、今まで気づけなかった自分の力や可能性を知り、「分かる喜び、できた喜び」を実感させたいものです。我慢して努力している時やできるようになった時に、誰よりもお家の人に褒められ、認められ、励ましてもらいたいと思っています。どの子にも良いところがあり、どの子も伸びる力を持っていると信じています。

さて、今週の火曜日に見守り交通安全ボランティア、図書ボランティア、校外学習で名所を説明して下さったボランティア等の方々を招き、「ありがとう集会」を開催しました。各学年の合唱や合奏、児童からの感謝の言葉、1年生による花のプレゼントもありました。最後に全校合唱「たいせつなことば（ありがとう）」と続き、とても綺麗なハーモニーが体育館いっぱい響きわたりました。全校の思いがしっかり伝わり、とても心温まる集会になりました。また、一人の方から牛乳パックで作られたペン立てを児童数分いただきました。後日、配付いたします。ありがとうございました。「感謝（ありがとう）の心」を大切にしていきたいと思っています。

人は一人では生きていけません。「人」という漢字をよく見ると、一画目を二画目が支えています。漢字が示すとおり人は支え合っていかなければ倒れてしまいます。しかし日常生活に目を向けると、お互いに支え合っているにもかかわらず、支えてくれている人のことをあまり意識することなく生活していることが多いのではないのでしょうか。「家族だけでなく地域の方々等、気付かないところで自分を支えてくれている人たちがいるということ、そして、そういう人たちに対して感謝の心を忘れてはいけないこと」を子どもたちに感じてほしいものです。

サッカー日本代表の長友選手はこんなことを書いています。「感謝の心・・・普通にご飯を食べられていることに幸せと感じられますか？当たり前なこととして捉えがちになる部分も含めて感謝の心をもつことが大切です。僕たちがサッカーできるのは、目立たないところで一生懸命働いてくれている人たちがたくさんいるからで、そういう人たちに感謝の心を示すためにも、常に全力でプレイしなければなりません。」

「ありがとう」を伝える機会はたくさんあります。落としたものを拾ってもらった時、励ましてもらった時、困っているとき助けてもらった時、手当てをしてくれたり、教えてくれたり、手伝ってくれたりする時もあります。でも、「ありがとうの心」は、そういう時だけではないと思います。悪いことをしそうな時に止めてくれたり、わがままを注意してくれたり、大事なことを教えてくれたりした時も、「ありがとう」ではないかと思います。そんな時でも、心から「ありがとう」と言える人になってほしいものです。

集会の最後に「ありがとうございます」と「さようなら」を全校児童で声を揃えて言いました。4月から学校では「あいさつ」に取り組んできました。「ありがとう（ございます）」は厳密にはあいさつには入らないかもしれませんが、あいさつと同様、素直に言えるようになってほしいと思います。